812

授業科目名	**学校経営と学校図書館**				
担当教員名	辻村敬三				
学年・コース等	2年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	京都府立聾学校教諭（6年）、京都府小学校教諭(14年）、京都府教育委員会指導主事（7年）の勤務経験　（全14回）				

授業概要

本科目では、教育目標の達成を支援する学校図書館の進め方や司書教諭と指導にあたる教師、学校司書・図書ボランティアとの協調・連携のあり方を学ぶことを目的とする。そのために、まず、学校経営の一部としての学校図書館運営の目的と理論を理解し、学校図書館の教育的意義や図書館活用年間計画、評価など、教育全般的な事項についての知識を習得する。次に、ワーキンググループをつくり、個や小集団の力が発揮できるような活動（発表資料の作成・協議、全体の場での表現活動）を体得し、司書教諭としての学校経営全体における図書館の機能や役割について学ぶ。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.教育に関する幅広い教養・技能	司書教諭としての基礎知識	学校経営と学校図書館、教育課程と学校図書館、学校図書館メディア、学校図書館の施設・設備等のしくみと内容が理解できる。
汎用的な力		
1. DP５.多角的な視点からの他者への理解		豊かな、確かなプレゼンテーションやスピーチなどの発表ができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
プレゼンテーションへの取り組み	30　％	：　グループでの協議経験を経て、全員を前にした３回のプレゼンテーションを行う。（プレゼン10点×3回=30点）
授業への取り組み状況	40　％	：　3回のディスカッションを行う。①準備②協議③関わり④進行⑤発表の５観点から評価する。（8点×5観点=40点）
期末試験(レポート)	30　％	：　小論文（原稿用紙）の記述内容で評価する。①内容理解の深さ②わかりやすさ③文章構成④視点⑤表記の5観点から評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

○学校経営と学校図書館　北本正章ほか（樹村房）ISBN978-4-88367-090-1

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業時に周知する

場所： 中央館２階個人研究室

備考・注意事項： 質問等については、授業後にも受け付けます。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション・司書教諭の仕事** ・司書教諭の仕事、資格、学校図書館司書教諭講習について確認し、この講義のあらましを学びます。また、「司書教諭と学校司書の違い」を、資料１により概略理解する。	レジュメに書かれた、司書教諭の仕事（制度的概要）を復習する。	4時間
第2回	**学校経宮と学校図書館** ・戦後の学校図書館が「学校図書館の手引」により進められたことを、時代背景を中心に学ぶ。また、1998年の「学校図書司書教諭養成講座」に「学校経営と学校図書館」が新設され、学校図書館の位置づけが学校経営の大きな柱になったことを学ぶ。そして、マネージメントサイクルPDCAの手法による「学校経営」の考え方が登場したことを知る。	学校図書館の理念と教育的意義を復習する。	4時間
第3回	**学校図書館の歴史** ・戦後の学校図書館はどのように考えられ、進められていたかを学ぶ。そして、全国組織から「学校図書館法」制定へ向けた動きを学ぶ。また、新しい教育を模索した1947年の学習指導要領（試案）を考える。	学校図書館の理念と教育的意義を復習する。	4時間
第4回	**学校図書館を支える法律** ・学校図書館と公共図書館との違い、学校図書館に関係する憲法、教育基本法、学校教育法、そして学校図書館法へとつなげながら、学校図書館を支える法律を学ぶ。特に、1997年に行われた「学校図書館法の改正」が、現在の学校図書館を形成していることを理解する。	配布した学校図書館を支える種々の法律を通読する。	4時間
第5回	**教育行政との関わり** ・「地教行法の一部改正」による教育行政（教育委員会）のしくみと支援体制を理解する。また教育委員会の支援体制がある先進市報告を元にして、これからの学校図書館のあり方を考える。	レジュメから教育委員会のしくみと支援を復習する。	4時間
第6回	**図書予算の確保** ・4回にわたって実施された「学校図書館図書整備新5カ年計画」の内容を精査し、地方交付税による 措置の是非を検討する。そして、図書予算額がどのように決まるか、また学校図書館相互貸借システムの流れを把握する。	学校図書館の経営に対する考え方を復習する。	4時間
第7回	**学校図書館の評価と改善** ・学校図書館の評価のあり方と評価の方法を考える。また、学校図書館の改造を実践した小学校の実践をもとに、「〇〇を目指した学校図書館改造方法」をワーキンググループ（WG）で見つけ合う。	学校図書館の評価と改善を復習し、WGの課題に向けた準備を進める。	4時間
第8回	**学校図書館の課題と対策：プレゼンテーションⅠ（図書館を変える）** ・「〇〇を目指した学校図書館改造計画」をWGによるプレゼンテーションで考え合う。また、司書教諭の発令や学校司書の配置と職務内容、図書ボランティアとの連携を考える。	学校図書館の発展と課題を復習し、プレゼンの内容を精査する。	4時間
第9回	**司書教諭と学校司書** ・学校図書館を担当する職員の職種や職務を考える。また、学校司書の法律上の位置づけを理解し、その業務がどのようになっているかを知る。	配布した資料をもとにして、司書教諭と学校司書の違いを確かめる。	4時間
第10回	**校内の協力体制と研修の持ち方** ・校内の協力体制づくりと学校図書館の利用予定を考える。また、「〇〇を目指した改造方法」で学んだ「図書館の配架計画」を、鳥瞰図にして個別に作成する。	校内の協力体制、研修のあり方を復習し、プレゼンの内容を再吟味する。	4時間
第11回	**公共図書館の支援：プレゼンテーションⅡ（あなたの図書館を創造しよう）** ・公共図書館の支援内容を確かめ、相互貸借システムの概要を理解する。また、個別に作成した「図書館の配架計画（鳥瞰図）」を、WGで発表し合い班代表を選出する。	プレゼンの成果と課題を把握し、図書館のレイアウト（鳥瞰図）を再考する	4時間
第12回	**図書委員会と学校図書館の環境づくり**	児童と進める学校図書館の有効な活動を復習し、WGによる共同作業に取り組む。	4時間

	・班代表による「図書館の配架計画（鳥瞰図）」をプレゼンし合う。そして、図書委員会の役割と活動を知り、図書委員への指導を把握し学校経営に位置づける「環境づくり」考える。さらに、WGによる「図書館を使用する授業の計画」を構想する。		
第13回	**学校図書館の年間計画** ・WGで、目的と方法を明確にして「学校図書館　月ごとの活動計画」を協議、作成する。	学校図書館活動の展開を復習し、WGによる共同作業を進める。	4時間
第14回	**プレゼンテーションⅢ（年間計画を作ろう）：魅力ある学校図書館づくり** ・WGによる「学校図書館の年間計画」をプレゼンし合い、各学期の図書館活動の特徴や各学年の取り組み、発達段階による違いなどを把握する。最後に、H28年度で終了した「新5カ年計画」や図書ボランティアの協力を念頭にして、「魅力ある学校図書館づくり」について考える。	プレゼンの成果と課題を把握した後、これまでに学んできた内容を反復する。	4時間

812

授業科目名	学校図書館メディアの構成				
担当教員名	浅野法子				
学年・コース等	2年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	小学校図書館、児童文学館での実務経験有（全14回）				

授業概要

学校図書館にそなえるメディアの種類と特性について学びます。また、それらのメディアをどのように選択し、実際に利用者が手に取れるまでにはどのような作業が行われるのかを理解します。学校図書館現場は、１人で様々な役目をこなす必要があり、整理技術にについても基本的な技術を修得する必要があります。そのため、部分的に実習を取り入れながら、講義を行います。図書の整理については、日本十進分類法や日本目録規則などを使って順に講義を行います。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.教育に関する幅広い教養・技能	学校図書館メディアに関する基礎的な知識と考え方	学校図書館メディアに関する基礎的な知識と考え方を修得できる
汎用的な力		
1. DP７.忠恕の心		利用者にわかりやすい書誌情報を作成する

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・実験、実技、実習

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業内課題	30 %	： 毎回の授業で振り返りを兼ねたコメントシートを作成します。2ポイント×14回＋加点
授業内提出レポート	25 %	： 内容の妥当性と論理的構成について、独自のルーブリックに基づいて評価します。
受講態度	20 %	： 授業に積極的に参加し、課題に取り組む態度を評価します。
定期試験（レポート）	25 %	： 内容の妥当性と論理的構成について、独自のルーブリックに基づいて評価します。定期試験期間中に実施。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
「探求学校図書館学」編集委員会	・ 探求学校図書館学2学校図書館メディアの構成	・ 全国学校図書館協議会	・ 2020 年

参考文献等

日本図書館協会目録委員会『日本目録規則<2018年版＞』日本図書館協会,2019、ISBN978-4820418146
日本図書館協会分類委員会『日本十進分類法　新訂10版』日本図書館協会,2014、ISBN978-4-8204-1413-1

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習すること。
次回の授業の最初に、習熟度を確認するための確認テストを行うこともあるので、しっかり理解しておくこと。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜３限

場所： 研究室（西館5階）

備考・注意事項： 授業の前後にも質問に応じます。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**学校図書館と学校図書館メディア** 学校図書館の役割と収集するメディアの利用について学びます。	学校図書館メディアの役割について復習する	4時間
第2回	**学校図書館メディアの種類と特性** 学校図書館メディアについて、学校教育の変遷と活用するメディアの変化について学びます。	学校図書館にはどのようなメディアがあるか復習する	4時間
第3回	**学校図書館メディアの構築** メディアの収集・整理・保存・提供について業務として整理するとともに、構築の実際について学びます。	学校図書館メディアの構築の実際について復習する	4時間
第4回	**学校図書館メディアの収集方針と選択** メディア選択の方針や利用する情報源について学びます。	どのような選択の理論があるか復習する	4時間
第5回	**学校図書館メディアの組織と主題分析** 学校図書館メディアを組織化するにあたって、どのような業務があるかを学びます。 また、組織化に必要な主題分析についても考え方を学びます。	主題分析について復習する	4時間
第6回	**件名法と件名目録** 「言葉」による主題分析の表現方法である件名法について学びます。	件名法の実際について復習する	4時間
第7回	**分類法（1）日本十進分類法** 「記号」による主題分析の表現法である分類法のうち、『日本十進分類法』の基礎を学びます。	『日本十進分類法』の基礎について復習する	4時間
第8回	**分類法（2）分類規程** 『日本十進分類法』での分類作業に必要なルールとしての分類規程を学びます。	分類規程について復習する	4時間
第9回	**分類法（3）分類作業** 『日本十進分類法』を使って、実際に分類作業を行います。	分類作業の実際について復習する	4時間
第10回	**図書記号と排架法** メディアを個別化するため方法や図書館に並べる際の方法について学びます。	実際に図書館でメディアが並んでいる状態を確認する	4時間
第11回	**目録法（1）目録の重要性** メディアの組織化にあたり、目録の必要性とその役割について学びます。	メディアの組織化における目録の意義を理メディアの組織化における目録の意義を復習する	4時間
第12回	**目録法（2）日本目録規則と記述目録法（図書）** 日本目録規則について、その概要について学びます。 書誌情報の記述について、図書を例に必要な項目等について学び、記述を作成します。	日本目録規則の概要と書誌の記述方法を復習する	4時間
第13回	**目録法（3）標目と標目指示、配列について** 書誌情報のアクセスポイントであり、排列を決める標目について学びます。 また、目録記入を並べる方法を学びます。現在では、実際に目録記入を並べる作業はほとんどありませんが、冊子体目録や検索結果の一覧表示を作成する場合には必要な知識となります。	標目の必要性とその選び方について復習する	4時間
第14回	**まとめ：実践問題** 目録法と主題索引法について、学校図書館メディア組織化の実際を意識しながら、実践問題に取り組む。	総まとめをし、最終課題に備える	4時間

812

授業科目名	学習指導と学校図書館				
担当教員名	小泉直美				
学年・コース等	2年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	司書資格と司書教諭資格を有している。大学図書館と学校図書館での実務経験がある。（全14回）				

授業概要

本科目では、学校図書館の目的の一つである「教育課程の展開に寄与する」ために学校図書館がどのように機能すればよいのかを主に考察していく。そのなかで実際に図書館を活用し、グループ学習において学校で行われる探究学習をテーマに情報活用能力の育成について学ぶ。また教科の単元に位置づけた学習活動では、調べることの楽しさを子どもたちと教員に支援できる司書教諭のあり方を学ぶ。演習を通して学校図書館が学習に必要な場所であることを解説する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.教育に関する幅広い教養・技能	司書教諭としての基礎知識・技術	教育課程の展開、メディア活用、情報サービスの実際を学び、具体的な知識や技術を修得する。
汎用的な力		
1. DP５.多角的な視点からの他者への理解		探究学習や情報サービスを具現化し、全体の場で発表することができる。
2. DP７.忠恕の心		収集した情報から、具体的事例や発表資料を作成できる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業への積極的参加	20 %	： グループでの協議経験を経て、2回のプレゼンテーションを行う。
課題の取り組み	50 %	： 演習課題に対する協力姿勢を評価する。
定期試験(レポート)	30 %	： レポートの記述内容で評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

「探究学校図書館学」編集委員会編著　『学習指導と学校図書館』　全国学校図書館協議会　2020年

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　授業の前後

場所：　授業の教室

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**学校図書館オリエンテーション** 図書館オリエンテーションを行うにあたり、利用指導のあり方について考える。	図書館オリエンテーションの構想を練り､利用指導のあり方を復習する。	4時間
第2回	**教育課程と学校図書館** 学習指導要領における学校図書館活用に関する記述を示し、学校図書館のあり方を学ぶ。	これまで経験した学校図書館を振り返り､図書館の実務を復習する。	4時間
第3回	**学校図書館における情報活用能力の育成（１）課題の設定** 学校で行われる探究学習を図書館で行う。マンデラートやイメージマップを使用し、グループごとに課題を設定する。	各グループで話し合い課題を決定する。	4時間
第4回	**学校図書館における情報活用能力の育成（２）情報収集・整理分析** 学校で行われる探究学習を図書館で行う。設定した課題について情報を集める。学習のまとめを行うにあたり情報を取捨選択する。	設定した課題についてさまざまな情報を集める。	4時間
第5回	**学校図書館における情報活用能力の育成（３）まとめと表現** 調査した内容をグループでまとめて発表する。	各グループの発表を聞いて振り返りを行う。	4時間
第6回	**発達段階に応じた学校図書館メディアの選択** さまざまなメディアがあることを知り、発達段階に応じたメディアを提供する。	配布資料を再確認し、メディアについて大学図書館や近隣の公共図書館を利用して振り返りを行う。	4時間
第7回	**教科の単元に位置付けた学習指導（１）学校図書館の活用** 単元に必要な図書館所蔵の資料を探索する。	教科書の単元を理解し、図書館メディアを把握する。	4時間
第8回	**教科の単元に位置づけた学習指導（２）図書館メディアを利用した支援** 学習指導を支援するブックトークを考える。	学習支援のあり方を理解する。	4時間
第9回	**学習指導を支える学校図書館メディアと環境整備** 教育課程に対応した学校図書館コレクションの構築、読書活動を支援するための環境整備を考える。	NDCについて復習し、児童生徒と教職員が利用しやすい環境を考える。	4時間
第10回	**特別な教育的ニーズと学校図書館** 特別な支援を必要とする児童生徒への学校図書館活動を考える。	特別な支援を必要とする児童生徒のニーズを理解する。	4時間
第11回	**情報サービスと学校図書館** 学校図書館において児童生徒又は教職員から何らかの質問があった場合、司書教諭としてどのように対応すべきかを考察する。	学校内外における情報サービスを理解する。	4時間
第12回	**授業計画の立案・作成** 児童生徒を対象にした図書館オリエンテーションの指導案を作成する。	指導案を完成させる。	4時間
第13回	**授業計画の発表と評価** 作成した指導案を各自発表する。	受講生の発表を聞いて、各自振り返りを行う。	4時間
第14回	**司書教諭の役割** 児童生徒への学習支援や教職員への授業づくりの支援のあり方を理解する。	これまで学んだ内容をまとめて、整理する。	4時間

812

授業科目名	**読書と豊かな人間性**				
担当教員名	川窪和子				
学年・コース等	2年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	司書として37年間公立図書館に勤務、子ども読書活動推進計画策定や学校図書館連携等にも関わる。4年間大学図書館に勤務。（全14回）				

授業概要

本科目では、児童生徒の発達段階に即した読書教育の大切さを探り、子どもと本を結び付け、読書の生活化を図る方法について考えます。そこから、学校図書館と司書教諭の役割と責務を理解し、読書が子どもたちの豊かな人間性を育む上で重要な要素となっていることについて理解を深めます。
また、子どもと本を結ぶ具体的手法を体験することで実践力をつけるとともに、各種社会教育機関との連携にも触れ、生涯学習の視点からも学校図書館の果たすべき役割についての理解を深めます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.教育実践の省察・研究	学校現場での読書に関する知識と実践力を身につける	児童、生徒の読書の意義を理解できる

汎用的な力

1. DP４.主体的・継続的に学び続ける習慣	教育活動と学校図書館を結ぶ方法を学ぶ
2. DP５.多角的な視点からの他者への理解	子どもの読書活動を推進する指導方法を学び、実践する力を身に付けることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
実技	20 %	： 本の紹介（朗読）やブックトークなどの実技演習について、独自のルーブリックに基づいて評価します。
提出物（書評等作成）	20 %	： お勧め児童書の書評（紹介文）の作成演習・発表について、独自のルーブリックに基づいて評価します。
提出物（児童図書館レポート等ミニッツレポート含む）	40 %	： 近隣の児童図書コーナーのレポートや授業後のミニッツレポートを提出する。独自のルーブリックに基づいて評価します。ミニッツレポートは、授業内容を理解し、自分で考えられていれば、加点します。
定期試験（レポート）	20 %	： 授業での学びを生かして、読書指導の指導プランを作成します。独自のルーブリックに基づいて評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

「探究　学校図書館学4巻　読書と豊かな人間性」編集委員会・編著　全国学校図書館協議会　2020年刊　ISBN：978-4-7933-2277-8
「児童サービス論（JLA図書館情報学テキストシリーズ3)」堀川照代著　日本図書館協会　2020年　ISBN：978-4-8204-1909-9
「読書と豊かな人間性」米谷茂則，岩崎れい 著 放送大学教育振興会 2020年　ISBN：978-4-5953-2226-6
「読書と豊かな人間性（ライブラリー学校図書館学）」金沢みどり・ 河村俊太郎 共著　勉誠社　2023年　ISBN：978-4-5853-0401-2
「児童サービス論（講座図書館情報学 ; 7)」伊香左和子・塚原博 編著　ミネルヴァ書房　2023年　ISBN：978-4-623-08471-5

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　授業前後

場所：　授業教室

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**読書の意義と目的** ・オリエンテーション ・今日的課題を踏まえ、読書の意義と目的について学ぶ。子ども時代における読書活動の効果に関する研究結果等を学び、児童生徒の読書活動への支援・指導の必要性を理解する。	次回課題「読書と心の教育」に関する資料を読んでキーワード、疑問点にアンダーラインを引く。	4時間
第2回	**読書と心の教育（読書の習慣形成を含む）** ・読書と心の教育について、近代日本の読書教育や学習指導要領の変遷、子どもの本の変遷を振り返りながら、人間の脳の発達との関連における読書習慣形成の重要性を理解する。	次回課題「読書活動推進法」等に関する資料を読んでキーワード、疑問点にアンダーラインを引く。	4時間
第3回	**豊かな心を育むための読書** ・「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」等の資料をもとに、国や自治体、民間の子ども読書活動の推進方策や取り組みを理解するなかで、学校図書館における豊かな心を育むための読書について考察する。	次回課題「発達段階に応じた読書指導と読書計画」に関する資料を読んでキーワード、疑問点にアンダーラインを引く。	4時間
第4回	**発達段階に応じた読書指導と読書計画** ・公共図書館や子育て支援施設における就学前の乳幼児期に対する読書支援サービスの意義と実態を学ぶとともに、学校図書館における小学生低・中・高学年、中高生の読書能力等の発達段階に応じた基本的な読書指導と読書計画について考察する。	次回課題「子どもの読書の実態と読書指導の課題」に関する資料を読んでキーワード、疑問点にアンダーラインを引く。	4時間
第5回	**子どもの読書の実態と読書指導の課題** ・学校図書館に関する各種調査資料（文部科学省・全国学校図書館協議会）をもとに、子どもの読書の実態について学び、読書指導の課題について考察する。 ・学校図書館における「読書指導年間計画」の作成手法を学ぶ。	次回課題「児童生徒向け図書の種類と実際の状況」に関する資料を読んでキーワード、疑問点にアンダーラインを引く。	4時間
第6回	**児童生徒向け図書の種類と実際の状況** ・近隣の公共図書館等実際の図書館を例にして、児童資料の類型や選書、各種サービスについて学び、理解を深める。 ・課外で近隣の図書館を見学し、配架や特色ある取組についてレポートを作成する。	近隣の図書館を見学し配架や特色ある取組についてレポートを作成する。次回課題「児童資料の種類と特性（絵本・幼年文学へ）」に関する資料を読んでおく。	4時間
第7回	**児童資料の種類と特性（絵本・幼年文学へ）** ・絵本や幼年文学の種類と特性について学ぶ。	次回課題「児童資料の種類と特性（物語と伝承文学）」に関する資料を読んでキーワード、疑問点にアンダーラインを引く。	4時間
第8回	**児童資料の種類と特性（物語と伝承文学）** ・創作児童文学や伝承文学の種類と特性について学ぶ。	次回課題「児童資料の種類と特性」に関する資料を読んでキーワード、疑問点にアンダーラインを引く。	4時間
第9回	**児童資料の種類と特性（ノンフィクション・レファレンス資料等）** ・ノンフィクション（主題図書）やレファレンス資料、新聞・雑誌の逐次刊行物等の種類と特性について学ぶ。	次回課題「学習を支援する図書館の役割」に関する資料を読んでキーワード、疑問点にアンダーラインを引く。	4時間
第10回	**学習を支援する図書館の役割**	書評を作成するとともに、次回課題「様々な読書指導の方法　読書指導の方法①」を読んでおく。	4時間

	・各教科及び探求的な学習への支援と、学校図書館でのレファレンス（情報提供）サービスを学ぶ。 ・読書推進のための「書評」作成について学び、児童生徒に向けた児童書の書評を作成する。		
第11回	**様々な読書指導の方法　読書指導の方法①** ・読み聞かせ、朗読、ストーリーテリング、ブックトーク、読書へのアニマシオン、読書会、ビブリオバトル、本の福袋、読書郵便等等の読書指導の方法についての概要を学ぶ。	朗読などの実技課題の練習を行うとともに、次回課題「子どもと本を結ぶための方法１」に関する資料を読んでおく。	4時間
第12回	**子どもと本を結ぶための方法１** ・読み聞かせ、朗読、ストーリーテリング、ブックトーク、読書へのアニマシオン、読書会、ビブリオバトル、本の福袋、読書郵便等の読書指導の学校図書館における具体的手法を学ぶ。 ・第10回課題の成果物である書評を各自発表し相互評価を行う。	次回課題に関する資料を読んで、ブックトーク演習に向け練習する。	4時間
第13回	**子どもと本を結ぶための方法２．** ・読み聞かせ、朗読、ストーリーテリング、ブックトーク、読書へのアニマシオン、読書会、ビブリオバトル、本の福袋、読書郵便等等の読書指導の学校図書館における具体手法を学ぶ。 ・各自が設定したテーマで実際にブックトーク演習を行う。	次回課題「地域社会との連携」に関する資料を読む。近隣図書館における児童サービスレポートの発表準備をする。	4時間
第14回	**地域社会との連携** ・地域の公共図書館等の活動と学校での読書指導の連携について学ぶ。 ・第6回課題の近隣図書館の児童サービスにおける配架や特色ある取り組みのレポートを発表し相互評価を行う。	「読書と豊かな人間性」で学んだことについてレポートにまとめる。	4時間

812

授業科目名	**情報メディアの活用**				
担当教員名	川窪和子				
学年・コース等	2年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	司書として37年間公立図書館に勤務、子ども読書活動推進計画策定等担当。4年間大学図書館に勤務。（全14回）				

授業概要

情報化が進展する社会と学校図書館の情報化の流れを概観し、「メディア専門職」である司書教諭の職務を理解する。情報の評価・情報検索の技術・検索結果の評価手法や、情報化社会の特徴を知り、情報リテラシーを育成する学校図書館と情報メディア活用の基礎を学ぶ。多様な情報メディアの特性や情報活用能力を育成するために必要となるインターネットによる情報活用方法について、講義・演習を通して学習する。その中で、学校図書館に関わる著作権やプライバシー保護等について確認する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.教育実践の省察・研究	司書教諭として必要な情報リテラシーの理解を図る。	「メディア専門職」である司書教諭が必要なITリテラシーを獲得する。
汎用的な力		
1. DP３.社会への貢献態度		社会で起こっている変化を自らの問題としてとらえ、知らないこととして済ますのではなく、自らの今までの経験と結びつけて理解し、自分なりの問題意識を持つことができる。
2. DP７.忠恕の心		情報メディアの利用について、わかりやすく生徒に伝えられるよう、コミュニケーション能力を鍛える。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・実験、実技、実習

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業ごとの課題	40 %	： 授業内容を踏まえ、独自の視点を加えて論じることができているか、また、演習課題に対し、的確なツールやキーワードを選択し調査しているかどうかを評価する。（各回4点満点）
定期試験（定期試験期間中に実施）	40 %	： 司書教諭となるにあたって必要な、情報メディアの活用に関する基礎知識を修得できているか、全講義内容を正しく理解し、講義内容を踏まえたうえで、独自の視点を加えて課題を論じられているかを観点に評価する。
情報発信サービス（パスファインダー）演習課題	20 %	： 学習内容を理解し、その修得した知識を用い、情報発信サービス演習として作成するパスファインダーについて、独自のルーブリックに基づいて評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

「情報メディアの活用」(探求学校図書館学第5巻)「探求 学校図書館学」編集委員会編著　全国学校図書館協議会　2021年刊 ISBN:978-4-7933-2278-5
「情報サービス演習」(JLA図書館情報学テキストシリーズ3 / 塩見昇 他編) 大谷康晴 齋藤泰則共編著　日本図書館協会　2020年刊 ISBN:978-4-8204-2000-2
「情報メディアの活用」高鍬裕樹, 田嶋知宏編著　放送大学教育振興会　2022年　ISBN:978-4-5953-2360-7
「知りたい気持ちに火をつけろ！: 探究学習は学校図書館におまかせ」木下通子著 (岩波ジュニア新書970)
岩波書店　2023年刊　ISBN:978-4-0050-0970-1

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　授業前後

場所：　授業教室

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション、高度情報社会と人間** 講義方針と計画、授業の進め方、成績評価方法について説明する。情報とメディアの定義、メディアの種類、高度情報社会における学校図書館の役割、学校図書館での情報メディアの活用などについて説明する。	情報化の現状について確認する	4時間
第2回	**教育メディアの歴史と情報メディアの活用** 情報メディアの歴史、発達と変化および、情報サービスの意義を明らかにし、学校図書館における情報メディアの活用について概説する。	メディアの歴史について、復習しておく	4時間
第3回	**情報リテラシーと情報活用能力について** 司書教諭としての学校図書館における情報リテラシーと情報活用能力について概説する	情報リテラシー・活用能力について復習する	4時間
第4回	**情報メディアの特性と選択について** 学校における情報メディアについて概説する（図書・逐次刊行物・電子書籍・各種データベース）	各種メディアの特性について現物でも確認する	4時間
第5回	**視聴覚メディアの活用－特別支援の必要な児童生徒への情報メディアの活用について—** 学校図書館における視聴覚メディアについて、主に、特別な支援を要する子どもたちへのサービスの意義と現状、関連法規を概説する。特に、読字障害や発達障害などで、図書館利用において障害と感じる児童生徒へのサービスの観点から、マルチメディアデイジー資料の普及やそれに関わる改正著作権法について解説する。	関連法令を復習する	4時間
第6回	**情報検索の理論と方法　情報探索技法** インターネット経由の各種情報データベースにおける情報探索技法（論理演算・トランケーション・件名、シソーラス等）の基本と技術について概説する。（具体的な情報探索技法を用いた演習課題に取り組む）	情報探索演習技法についての演習課題を提出する	4時間
第7回	**情報検索の技法と実際（文献調査：書誌・新聞・雑誌）** 各種情報源の解説と特質と利用法・評価（書誌・新聞・雑誌などの文献調査に関する各種情報源について学び、演習課題に取り組む。）	文献調査についての演習課題を完成させて提出する	4時間
第8回	**情報検索の技法と実際（言葉・事象・人物）** 各種情報源の解説と特質と利用法・評価（言語、事物、概念や人物、団体に関する情報の探し方を学び、演習課題に取り組む。）	言葉・人物・事象についての演習課題を完成させて提出する	4時間
第9回	**情報検索の技法と実際（地理・地名・歴史）** 各種情報源の解説と特質と利用法・評価（地理・地名・歴史に関する情報の探し方を学び、演習課題に取り組む。）	地理・歴史についての演習課題を完成させて提出する	4時間
第10回	**情報検索の技法と実際（法令・知的情報系・生活一般）** 各種情報源の解説と特質と利用法・評価（法令･判例・行政情報の探し方や特許・商標などの知的情報系、統計や生活一般に関する情報の探し方を学び、演習課題に取り組む。）	法令や生活一般についての演習課題を完成させて提出する	4時間
第11回	**学校図書館メディアと著作権・個人情報保護について** 学校図書館における著作権や制限されるサービスを理解し、学校図書館における個人情報保護の課題・問題点について解説する。	情報社会の問題点についてまとめる	4時間
第12回	**情報発信サービス１（パスファインダーの作成演習）** 学校図書館での情報発信について概説し、近年のインターネットの発展による新しい情報発信手段について、その技術と問題点、活用の可能性について考える。発信型サービスの実際として、パスファインダーの作成演習を実施する。	パスファインダーを作成する	4時間
第13回	**情報発信サービス２（パスファインダーの作成演習）**	パスファインダーを完成させる	4時間

	発信型サービスの実際として、パスファインダー(調べ方ガイド)等を完成させ、プレゼン発表・相互評価を行う。		
第14回	**学校図書館の課題と展望** オープンデータの活用やモラルの遵守、ネットワークセキュリティの問題などを解説する。本講義を総括する中で、高度情報社会における学校図書館の現状を整理し、今後の学校図書館の方向性と、司書教諭に期待される役割について考える。	総復習	4時間